**多様な性、ＬＧＢＴｓについて正しく知ろう。**

**性的マイノリティとは・・・**

新聞やテレビなどでも「ＬＧＢＴ」という言葉を耳にする機会も増えてきました。

ＬＧＢＴとは性的少数者の代表的なタイプの人たちのことで、性的マイノリティ（典型的とされていない性的指向や性自認を持つ方）の総称の一つとしても使われ、その英語の頭文字をとったものです。

性別に関する「性的多数派」とは、「戸籍に登録された自分の性別に対して違和感が無く、かつ、異性に対してのみ恋愛感情をもつ人たち」のことで、「性的少数者」とは「性別に関して、世の中の多数派とは違う特徴を持つ人たち」のことです。

　ＬＧＢＴ（性的少数者）は、次の3つの要素に分けて考える必要があります。

①「生まれた時に割り当てられた性」・・・からだの性別の特徴から戸籍に登録された性別です。

②「こころの性」・・・自分自身の性別をどのように認識しているかで、「性自認」とも呼ばれます。

③「好きになる相手の性」・・・自分の恋愛感情や性的欲求が向かう相手方の性別が、「同性のみであるか異性のみであるか」、それとも「両方か」それとも「どちらにも向かないか）」になります。「性的指向」とも呼ばれます。

ＬＧＢＴとは、

・出生時に割り当てられた性別と「こころの性別」とのあいだに不一致がある人

・「こころの性別」と同じ性別の人（同性）に恋愛感情が向かう人

のことで、どちらか一方の特徴をもつ人もいますが、両方の特徴を持つ人もいます。

①生まれた時に

割り当てられた性(≒からだの性別）



**③好きになる性**

自分が好き

になる性

（性的指向）

**②こころの性**

自分で認識

している性

（性自認）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　※性別表現・・・服装、しぐさ、言葉遣いなど自己表現における

性別。性自認と一致しないこともあります。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 性的指向（好きになる性）  Sexual　Orientation  に関して | Ｌ　レズビアン  （女性同性愛者） | 女性を好きになる性 |
| Ｇ　ゲイ  （男性同性愛者） | 男性を好きになる性 |
| Ｂ　バイセクシュアル  （両性愛者） | 同性も異性もどちらも好きになる性 |
| 性 自 認（自認する性）  Gender Identity  に関して | Ｔ　トランスジェンダー  （性別違和者・性別越境者） | からだの性に違和感があり、こころの性で暮らしたいと考えている人  （性同一性障がい者を含む） |

性的マイノリティには、

「Ｑ クエスチョニング（自分の性や好きになる性について自問している人）」

「Ａ アセクシャル（恋愛感情や性的欲求を求めない人、無性愛者）」

「Ｐ　パンセクシュアル（性を意識することなく、人そのものを好きになる人、全性愛）」　等

この他にも多数あり、**「ＬＧＢＴｓ」**と呼ぶこともあります。

**性の多様性について**

　上記の②こころの性（性自認）と、③好きになる性（性的指向）については、同性か異性かといった二者択一的なものでは無く、濃淡（グラデーション）をもった段階的なものです。さらに、①からだの性を加えた３つの性別の組み合わせも、各人ごとに十人十色です。性的マイノリティについて考えることは、こうした「性の多様性」を理解することです。性的指向や性自認は、人それぞれで多様であり、この特性は、個人の趣味や嗜好ではなく、選択の対象でもないため、本人の意思で変えられるものではありません。性のあり方は人ひとそれぞれで、一つの個性なのです。

　最近では、性的指向（sexual orientation）と性自認（gender identity）の英語の頭文字を組み合わせた**「ＳＯＧＩ」**という言葉が使われることもあります。

**相談（カミングアウト）を受けたら、「否定せず、広めず、寄り添おう」**

もし身近な人から、自分が性的マイノリティである（かもしれない）ことを打ち明けられたら、必ずしも正しい完璧な対応をしようと無理しなくてもいいのです。気を付けることは、

○まずはじっくりと話を聴こう。「話してくれてありがとう」を伝えよう。

○「そんなおかしなこと言わないで」「一時の気の迷いだよ」など、相手を否定するような応答は避けましょう。

○わからないことは本人にたずねよう。簡単に決めつけたような発言をやめよう。

○どんなことに困っているのか、どのような対応をしたらいいのか、話し合おう。

○相談の中で聴いたことを、本人の了解なく他の人に話すこと（アウティング）は絶対にやめよう。

**「誰もが自分らしく生きられる社会へ」「多様性を認め合える社会へ」**

各種調査によると、性的マイノリティの方は人口の８％前後いると言われています。自分が気づいていないだけで、自分の回りにもいるのかもしれません。また、いじめや差別を受けることをおそれ、自分の性のあり方を明らかにできないでいるのかもしれません。自分が当たり前と思っていても、他の人にとってはあたり前ではないこともあります。

○その人の身体つきや名簿上（戸籍）の性別を理由に、『男らしく、女らしく』というのはやめましょう。

○周りの人はみんな『異性を好きになる人』だという思い込みで、話すのはやめましょう。

具体的には、たとえば「彼女いるの？」「どんな男性がタイプなの？」などは、話し相手が好きになる性別を決めつけた発言なのでＮＧです。「恋人」や「パートナー」など性別を限定しない表現を工夫しましょう。

大切なことは、それぞれの性のあり方を尊重し、一人ひとり違うことを正しく理解することです。正しい理解で、性的指向や性自認（上記のＳＯＧＩ）を理由とする差別や偏見をなくしましょう。

さらに、性別にとどまらず、年齢、国籍、障がいの有無など互いの違いを認め、互いに支え合える多様性のある社会、誰もが自分らしく生きることができる社会にしていきましょう。

**「ＬＧＢＴｓの良き理解者、ＡＬＬＹ（アライ）」になろう！**

ＡＬＬＹとは、性的マイノリテイ（ＬＧＢＴｓ）を理解し、支援する考えを持つ人のことです。

性について悩みを抱え、生きづらさを感じている人たちが、自分らしく生きられる社会になるよう、みなさん一人ひとりが、性の多様性について正しく理解し、理解を深めていくことが大切です。

みなさん、「ＬＧＢＴｓの良き理解者、ＡＬＬＹ（アライ）」になりましょう。ＡＬＬＹになる方法は様々で、

ＬＧＢＴｓについて書かれた本を読んで勉強すること、ＬＧＢＴｓの当事者や支援者がつくる団体を訪ねてみること、性の多様性を象徴するレインボーをあしらった品物を身に着けることなどです。



**ＬＧＢＴｓに関する専門相談窓口**

【ＬＧＢＴs電話相談（アバンセ）】

臨床心理士が相談をお受けします。安心してお電話下さい。

（相談専用ダイヤル）090-1926-8339　（相談日時）第２日曜日、第４水曜日 14:00～16:00

詳しくは、男女参画課（☎223-9141）まで